

まなづる 海の月報

3年半に渡りお届けしてきた「まなづる 海の月報」は今月で最終号となります。これまでお読みいただきありがとうございました。最終号では、継続した取材により見えてきた真鶴の海の現状とこれからについてをまとめています。

変わりゆくまなづるの海

真鶴の海に広がるサンゴ、調査で発見



真鶴半島沿岸で確認されたサンゴ群集。枝状に伸びるミドリイシの仲間。(2022年3月撮影)

一面に広がるこのサンゴは、沖縄ではなく、真鶴半島の沿岸で3月に行われた海中調査により確認されたものです。サンゴといっても宝石サンゴではなく、サンゴ礁を作るイシサンゴで、本来、沖縄をはじめ四国や紀伊半島などの温かい地域の浅い海に生息します。

今回見つけたサンゴ群集は見たところ、最大10㎡ほど広がっていました。最近では千葉県や湯河原町福浦でサンゴが見られていましたが、真鶴でこれほどの規模で確認されたのは初となります。海水温の上昇が、身近な海にも影響をもたらしていることがわかります。

海の環境変化は生態系にも影響を及ぼし、海藻の減少や漁獲種の変化等、私たちの生活にも深く関わっています。海の保全にも活用にも、まずはこの変化に気づくことが大切です。真鶴の海の未来もみんなで見守り続けていきましょう。<調査協力：真鶴町漁協>

海洋ゴミ問題

海岸・海中清掃、回収ごみ150kg



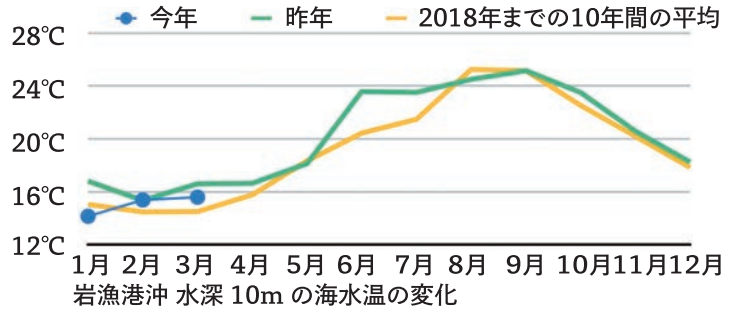
海中でペットボトルを拾うダイバー(左)、回収された釣りのおもり(右)

岩漁協・岩ダイビングセンター主催で、日本釣振興会の協力のもと、岩海岸のごみ拾いとダイバーによる港内の海中清掃が行われました。総勢20名ほどが参加し、プラスチックなど水中陸上合わせて150kgのごみが回収されました。海を楽しむだけでなく、海をキレイにするための取り組みに人々の関心も高まっています。

真鶴の海況

まだ寒い海、プランクトンは春の種類も

岩漁港沖水深10mの3月の海水温は15.6℃でした。日照時間が長くなり、春に増える植物プランクトンの仲間が多くなってきたため、海水も少しずつ濁り始めてきています。<情報提供：横浜国大臨海環境センター>



まなづるの漁獲情報

不漁続くも、春告げる鯖ようやく大漁！



サワラ大漁に賑わう真鶴町魚市場(左)、水揚げされたサワラは最大8kgほど(右)

3月は盛漁期にも関わらず、真鶴漁協の定置網では連日不漁が続いていましたが、ようやく下旬に、サワラが大漁の日も出てきました。春を告げるサワラのように、海の環境が変化する中でも、これまでと同様に季節を感じさせてくれる生物がいる一方で、この冬はブリが獲れなかったように変化も目立ってきています。

このコーナーでは旬の魚の紹介を通して、真鶴の海の環境と生物、そして食文化をお伝えしてきました。これからも地元の旬の海の恵みを味わいつつ、海の環境や自然に興味を持っていただけたら幸いです。ちなみに「サワラは煮ても焼いてもよし」の高級魚。今回は皮目を炙り刺身で美味しくいただきました。<情報提供：真鶴町漁協>

町立遠藤貝類博物館 4月中旬～5月のイベント

写真展「知られざる真鶴の海2022」

4月1日(金)～6月30日(水) 町立遠藤貝類博物館【予約不要】
※4月9日(土)、5月4日(水・祝)、5月28日(土)は学芸員による展示解説を行います。

海のミュージアム「磯の生物観察・海の自然実感教室」

4月17日(日)、5月1日(日)、5月5日(木・祝)、
5月15日(日)、5月21日(土)
町立遠藤貝類博物館【有料、要申込】

町立遠藤貝類博物館の開館時間が4月から変わります。
開館時間：10:30～15:30
水曜・木曜休館

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロードができます。印刷、掲示・配布歓迎です。

